

## 地域連携戦略室主催事業

- 令和3年度 タウンミーティング (第18回)
- 令和3年度 タウンミーティング (第19回)

## 地域連携戦略室主催事業

- 令和3年度 地域交流シンポジウム (第18回)

## サテライトオフィスの取組事業

- 那賀町地域再生塾
- 上勝学舎
- にしあわ学舎
- 美波町地域づくりセンター
- 神山学舎

## 徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

まちしごとファクトリー

ガレリア新蔵活動報告

# 2021

地域連携事業成果報告書

令和3年度 タウンミーティング (第18回)

「ひょうたん島・未来のあたりまえを考えるII」

開催主旨

■徳島市の「ひょうたん島」エリアで進められてきた公民連携の活動事例や、「トランジション・マネジメント」の手法について学び、徳島のまちなかの未来に向けた試みを考える。

開催日：令和4年2月19日（土）

場 所：オンライン開催（Zoom使用）

主 催：徳島大学人と地域共創センター

共 催：ひょうたん島まちなか再生機構

内容

(1) 趣旨説明

徳島大学人と地域共創センター 副センター長 山中 英生

(2) 第一部 基調講演

「持続可能な未来社会から逆算するまちづくりの方法論：トランジション・マネジメント」

明治大学公共政策大学院 専任教授 松浦 正浩

(3) 第二部 話題提供

●話題提供1「トランジションの視点からみた公民連携の川まちづくりの変遷の考察—徳島市ひょうたん島エリアを対象として—」

徳島大学工学部4年 社会基盤デザインコース 多田羅 佑太

●話題提供2「ひょうたん島の未来ビジョン」

NPO法人コモンズ 代表理事 喜多 順三

(4) 第三部 パネルディスカッション

「ひょうたん島・未来のあたりまえ 実現に向けて」

[コーディネーター]

NPO法人コモンズ 代表理事 喜多 順三

[パネリスト]

(公社) 徳島県建築士会 副会長 高源 真由美

NPO法人眉山大学 理事長 長谷川 晋理

徳島市市民活力開発センター マネージャー 岸田 侑

徳島大学大学院 創成科学研究科修士2年 横尾 果歩

[コメンテーター]

明治大学公共政策大学院 専任教授 松浦 正浩

(5) コメント・統括

徳島大学人と地域共創センター

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で18回目となった。

徳島市の中心に位置する環状河川の新町川・助任川などで形成されるエリアは「ひょうたん島」として親しまれており、新町川を守る会や様々な市民活動、水際公園、遊歩道、光のプロムナードやLEDアートフェスティバルなど、多

事業代表者・連絡先

山中 英生 (人と地域共創センター・副センター長)

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880

e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

くの公民連携の取り組みが行われている。こうした活動は約30年前の当該地域では考えられなかったが、現在は「あたりまえ」の姿として、徳島のまちなかを彩っている。

徳島大学人と地域共創センターでは、ひょうたん島まちなか再生機構が進められた20年先を見据えた「ひょうたん島の未来ビジョン」策定を支援してきた。トランジション・マネジメントにより策定されたこの未来ビジョンは、持続可能な将来の姿を「未来のあたりまえ」と捉え、そのあたりまえを実現するために、逆算的にこれから取るべき行動を導き出そうというものである。

かつて水質が悪く、護岸は直立したコンクリート、ドブ川と揶揄されていた新町川、清掃活動や川を活かしたイベントなどを重ねるうちに、水都とくしまを象徴する川となり、数十年の歳月を経て、今では「川をいかしたまちづくり」はあたりまえとなるトランジション(変革)を実現している。

このタウンミーティングでは、こうしたトランジション・マネジメントの手法を学びながら、ひょうたん島の未来のあたりまえについて考え、今後の活動へとつなげることを目的に開催した。

行事には徳島市民、県内外の行政職員・研究者・コンサルタント等といった方々が参加し、徳島のまちなかの未来について考える貴重な機会となった。



タウンミーティングの様子



チラシ

令和3年度 タウンミーティング (第19回)

勝浦町人形浄瑠璃文化の次世代継承に向けた地域連携タウンミーティング  
 「地域と共に創る伝統文化の未来」

開催主旨

■勝浦町の地域資源である浄瑠璃文化に着目し、伝統文化・伝統芸能の保存・次世代継承を考える。

開催日：令和4年3月13日（日）

場 所：オンライン開催（Zoom使用）

主 催：徳島大学人と地域共創センター

共 催：勝浦町教育委員会

協 力：NPO法人阿波農村舞台の会、勝浦座、小松島西高校勝浦校民芸部

内容

(1) 開会挨拶

(2) 第一部 基調講演

「地域の伝統芸能」

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 館長 佐藤 憲治

(3) 第二部 演舞

●演舞1「式三番叟」

勝浦座

●演舞2「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」

勝浦座

(4) 第三部 未来トーク&セッション

「人形浄瑠璃文化の次世代継承に向けて」

人と地域共創センター 准教授 段野 聡子

人と地域共創センター 特任助教 松本 卓也

(5) 閉会挨拶

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で19回目となった。

全国各地の農山漁村の神社の境内等には、歌舞伎や人形浄瑠璃、芝居など様々な芸能が演じられた農村舞台が多数残されており、徳島県は日本全国で最も多い208棟の農村舞台が現存している。そのなかでも農村舞台の分布密度が極めて高い地域が勝浦町を含む勝浦郡である。

農村舞台における阿波人形浄瑠璃などの伝統芸能・文化芸術は、産業と生活に密接に関わり、人々の生活の質を高

め、生きがいを与えるなど、共同財として、村落共同体に重要な役割を果たしてきたと考えられる。そんな勝浦町の地域資源である浄瑠璃文化に着目し、伝統芸能の保存・次世代継承について考えることを目的に開催した。

行事には勝浦町民、行政職員・研究者等といった方々が参加し、各々の立場から伝統文化・伝統芸能の歴史的役割や次世代継承について考える貴重な機会となった。



チラシ

令和3年度 徳島大学地域交流シンポジウム (第18回)

## 「水質浄化池から川と暮らしのつながりを考える in 神山町 大埜地の集合住宅」

### 開催主旨

■ 神山町大埜地の集合住宅に整備されている「水質浄化池」について、有識者からの話題提供や意見交換を通して、設計意図や取組・先進事例を学び、地域の課題解決について考える。

開催日：令和3年12月19日(日)

場 所：神山町農村環境改善センター

(名西郡神山町神領中津132)

オンライン同時開催 (Zoom使用)

主催：徳島大学人と地域共創センター

共催：神山つなぐ公社

後援：神山町

### 内容

(1) 開会挨拶

(2) 話題提供

● 「暮らし、育む川辺のランドスケープ」

ランドスケープ・デザイナー、プランタゴ代表

田瀬 理夫

● 「大埜地の集合住宅について」

一般社団法人神山つなぐ公社すまいづくり担当

高田 友美

● 「水質浄化池の楽しみ方～尼崎運河での事例紹介～」

徳島大学環境防災研究センター 講師 山中 亮一

● 「池からのまなざし～浮かぶ、佇む、眺める～」

徳島大学人と地域共創センター 講師 森田 椋也

(3) 意見交換

(4) 閉会挨拶

地域交流シンポジウムは、本学が地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として実施しているもので、18回目の開催となった。

今回のシンポジウムは、神山町の公営住宅である「大埜地住宅」の敷地北端に整備されている「水質浄化池」について、持続可能な地域活動といった課題解決のきっかけづくりを目的に開催した。

まず、大埜地住宅の建設プロジェクトや運用開発に携わる神山つなぐ公社の高田友美氏より大埜地の集合住宅について大まかに説明いただき、大埜地住宅の景観設計を担当されたランドスケープ・デザイナーの田瀬理夫氏より水質浄化池の設計意図について、神山つなぐ公社の高田友美氏より町民による浄化池手入れの変遷について、本学環境防災研究センターの山中亮一講師より尼崎運河水質浄化施設の事例紹介について、本学人と地域共創センターの森田椋也講師より池を介した活動の今後の展開・可能性について、それぞれ話題提供いただいた。

その後、参加者を交えて意見交換を行い、質疑やコメントを通じて、皆で今後の水質浄化池の利用管理について考える機会となった。



意見交換の様子



チラシ